挑戦7 未来を拓く人づくり

南薩地域の持つ教育的な伝統や風土を生かして
将来の南薩地域を担う子どもたちを育成します。

ボランティア活動を通して,地域づくりに貢献
(南九州市高校生クラブ 南九州市)

南九州市高校生クラブ(会員数373名)は,知覧中学校同窓生の交流とボランティア活動を通して地域の一員としての自覚を深めることを目的に昭和57年に結成しました。

毎年8月には交通安全運動,防犯キャンペーン,独居老人への励まし,清掃活動などのボランティア活動を行う「高校生ふるさと大会」を開催したり,校区行事や市主催の各種イベントに参加するなど地域活動に積極的に参加しています。

鹿児島県青少年育成県民会議で表彰されました。

これらの活動を行うことで生涯を通して南九州市の町づくり・人づくりに取り組む姿勢を養っています。

今後は,市全域の高校生から会員を募集し,活動の拡大を図り,南九州市における青少年団体の中核として活動していきたいと考えています。

お茶ボランティアの様子

募金活動の様子

挑戦4 本物。太陽と大地と水の恵みを生かした農林水産業おこし

南薩地域の温暖な気候や立地条件を生かした
特色ある農林水産の産地育成に取り組んでいます。

日本一の茶産地づくり(知覧銘茶研究会 南九州市)

知覧銘茶研究会は,知覧茶の銘柄確立を図るため昭和46年7月知覧町後岳地区の農家15名で発足しました。

研究会では,昭和49年に鹿児島県で開催された全国茶品評会で上位入賞を目指し,県茶業試験場(当時)や関係機関の指導・協力のもと,会員自らが一番茶の最も忙しい時期に自分の茶工場の操業を停止してまでして静岡県に研修に出向くなど,徹底した技術習得に努めました。その結果,同年の品評会では,最高の産地賞並びに農林水産大臣賞をダブルで受賞することができました。

また,平成7年全国茶品評会に機械摘み30キロの部が創設されてからは,平成21年までの15年間に6年連続を含む12回の産地賞を受賞するなど,全国の茶業関係者や消費者に対し「知覧茶」の認知度を高めることに貢献しました。

これらの功績が評価され,研究会は平成21年に第60回南日本文化賞を受賞しました。

現在は会員も29名に増え,会員一丸となって更なる銘柄の確立に努めています。

出品対策に取り組む会員

第60回南日本文化賞受賞

※南薩地域のお茶は,日本一の荒茶生産量を誇る南九州市を始め,枕崎市,南さつま市などで栽培され,県内の約5割の栽培面積,荒茶生産量を占めています。各地でお茶農家が良質茶の生産に頑張っていますが,今回は,このうち知覧銘茶研究会の活動を紹介します。

水土里サークル活動
（馬渡川地域環境保全対策会　南九州市）

農村の過疎化，高齢化，混住化等が進むなか，農地，農業用水等の地域資源を守る共同活動が弱まってきています。このため，平成19年度から国の施策として農地，農業用水等の資源を地域ぐるみで支えていく農地・水環境保全対策事業が導入されました。

私たち，馬渡川地域環境保全対策会では，農地・農業用水等の資源の保全活動として，農地・農業用施設の周辺の草刈りや水路の泥上げ，農道の補修作業を実施し，農業環境の向上と景観形成のためのコスモスなど景観植物の植栽を実施しています。

また，九玉小学校の児童の参加による，田植えの体験学習とどろんこドッジボールなどを実施して，地域住民との交流及び学校教育等との連携を図っています。

九玉小学校の児童が，ドッジボールなどの泥んこ遊びを交えて59名全員で苗を植えました。

水産物の付加価値向上に向けた取組
（JF加世田こんぴら市場　南さつま市）

「JF加世田こんぴら市場」は，漁業者が獲った水産物を消費者へ直接販売することで，産地の販売活動の活性化と収益向上を図ることを目的に，昨年5月にオープンしました。「JF加世田こんぴら市場」では，漁船から直接売場に持ち込まれた新鮮な魚を，その場で刺身などに調理しています。また，特産のシラスなどを原料にした「しらす丼の素」や「佃煮の素」といった加工品の開発も行なっており，地元で水揚げされた水産物の付加価値向上に努めています。

おいしい加世田の魚をぜひご賞味ください。

売り場の様子

店舗外観

挑戦6　心ふれあう安心・安全な地域社会づくり

地域住民の皆さんとともに，
日本一暮らしやすい地域の形成を目指します。

安心・安全な村づくり
（湯穴公民館長　久木田　征男さん　枕崎市）

湯穴地区の公民館長をお引き受けしてから9年目になります。

私の住む湯穴集落は，枕崎市の中心部から北西に約3km，園見岳の麓に位置していることから傾斜地が多く，また集落の中心を渓流が流れ，近くには花渡川もあり，過去には大雨による土砂災害や床上浸水も発生しました。

そのため，昔から地区住民の方々は「防災」に対して高い意識を持っていましたが，平成18年には自主防災組織を設立し，いざというときに迅速・的確に活動できるよう，避難訓練等を行っています。

痛ましい被害を防ぐためには，早めに避難することが最も大切であり，そのためには地区の方々に正確な情報を素早く，確実に伝える必要があることから，各戸への無線放送施設の設置も平成18年に完了しました。そのほか住宅用火災警報器の共同購入，交通安全教室の実施など，「防災」に対する様々な取組を進めていますが，これからも私の大好きな「湯穴集落」が，楽しく，安心・安全に住めるよう，地区の皆さんや関係機関と一緒になっていろんなことに取り組みたいと思います。

平成22年11月一部完成の「湯穴第一ダム」の前にて
（火山砂防事業）